

土曜日が休みになって久しいが、私の休日は午前中のテニスに始まる。幸い、家の近くにクラブがあつて、朝早くから会員達がやって来るので、老若男女を問わず、職業もそれぞれ異なる者が、いろいろとペアを替えながら試合をやる。特に接戦になるような相手と勝ち負けにこだわることなく全力を尽くし合った時は、

学に入ってからで、新人の頃の練習や合宿の厳しさも今ではなつかしい思い出です。先日、「東京箱根間大学駅伝」をテレビで中継していましたが、ヨレヨレになりながら走る選手の姿を見て、思わず頑張れと声をかけてしまいました。自分も大学時代に校内の運動各部対抗マラソン大会に毎年出場しましたので、棄権したら

力だけでは勝てない、相手の持ち味をどうしたら封じ込められるのか、どの場面でどういう攻撃ができるのかを考えながら、いろいろと方法を変えて、相手との駆け引きをしながらやる過程は見ていても面白い。これはスポーツに共通するものだと思います。



テニスと私

亀村 明憲

爽快この上ありません。

何事も忘れてテニスに没頭できるのも、元氣だからできることで、試合の合間に休憩しながら、職場や家庭、故郷のことを語らうことも楽しみの一つです。気が合うとそのまま帰りには、ちよいと一杯ということにもなります。そもそも、私がテニスを始めたのは大

リレーできないことになるプレッシャーを感じながら、自分自身と戦って長距離を走ることの苦しさは痛い程わかるのです。そのような困難を越えて優勝したチームはすごいの一語に尽きますが、それにも増してやつのことで中継点にたどりついた選手に、盛大な拍手を贈りたくなります。

私の家族も皆、テニスをするので時々一緒に出かけますが、特に女房がテニスをやるようになったことは私にとっても大変ありがたいことだと思う。とかく家の中にとじこもりがちだった女房が、何事にも割に積極的になって、たまには友達夫婦を誘ったりしてペアでテニスをすることもあります。

ストレスの発散にもなり、体調にも良いようです。「女房、いつでも元氣が良い」という次第です。息子や娘も大きくなつて、それぞれが自分の考えで行動するようになったこれからも、できるかぎりスポーツを続けたいと思うし、息子達それぞれがどのような人生を送るのかを思い巡らすのも楽しみである。

(企画調整部経理課長)